山梨経済

ショールームにカフェ

住宅建築の「優プラン」 親しみやすさ演出

木造住宅建築などを手掛ける優プラン（甲府市国母二丁目、斉藤直樹社長）は同所に、カフェを併設して親しみやすい店構えにした輸入住宅のショールーム「デコカフェ」をオープンさせた。

延べ床面積は約六十平方メートル。南フランスのプロバンスの家をイメージした自然素材の塗り壁や、温かみのあるタイルを使った内装で、リビングやキッチンを備えている。建築士も含めスタッフは全員カフェエプロンを着用。喫茶店のような雰囲気で、気軽に家づくりやリフォームの相談ができるようにした。

カフェだけの利用もでき、「珠屋小林商店」の豆と南アルプスの天然水で入れた本格コーヒーを提供。テークアウトもできる。セミナーやサークル活動の場として地域に無料開放も行い、フラワーアレンジメントの教室なども企画している。

優プランがオープンしたカフェ風ショールーム＝甲府市国母2丁目

斉藤社長は「これまでのショールームは敷居が高いイメージがあったが、輸入住宅の雰囲気に合わせて営業スタイルを大きく変えた。気軽に足を運んで雰囲気を知ってほしい」と話している。営業時間は午前十時から午後六時。問い合わせは同店、電話055（268）2535。

「アエラホーム」三重にオープン

中京エリアで2店舗目

住宅メーカーのライク（甲府本社・甲府市徳行一丁目、中島鷹秀社長）は四月、三重県四日市市に、中京エリアでは二店舗目、三重なるモデルハウス四日市店」を

四日市店は三十モデルハウス。中

電機大手ベアゼロ回答へ

日産、三菱電 賃下げ視野

日立製作所、パナソニック、東芝、NECなど電機大手は十一日、今年の春闘の労使交渉で労働組合が要求する賃上げ（ベア）を受け入れない「ゼロ回答」を示す方針を固めた。世界的な不況で業績が急速に悪化しているためで、賃上げが実現しないのは労組が要求を掲げなかった二〇〇五年以来、四年ぶり。マツダ、富士重工業、いすゞ自動車、日野自動車など自動車大手もゼロ回答の方針だ。

日産自動車や三菱電機は定期昇給のカットや賃金体系の見直しによる実質的な賃下げも辞さない構え。今後は労働側が現行の賃金水準を維持できるかどうかが焦点となる。春闘相場をリードする大手の電機、自動車メーカーの相次ぐゼロ回答方針が個人消費の冷え込みに拍車を掛けるのは必至。景気低迷を長期化させる恐れもある。

一時金では、三菱電が労組による五・八三カ月の要求に対して五カ月前後の水準で攻防、シャープも五・〇カ月の要求に満額回答しない方針。トヨタ自動車や三菱自動車の労組が満額回答を得ることは絶望的で、大幅な減額が避けられない見通しだ。

今春闘では、電機メーカー各社の労組は、代表的な職種である開発・設計職で一人当たり四千五百円の賃上げを要求。自動車大手の労組は、ベースアップに相当する賃上げ分として四千円を求めている。

しかし、経営側「ベア以前（の問C幹部）など厳しておらず、労使に「主要な議論の状況だ。労使交渉響を与えるトヨタアに応じない方針る。

企業物価1.1%下落

デフレ突入懸念強まる

日銀が十一日発表した二月の国内企業物価指数（二〇〇五年＝一〇〇、速報）は一〇五・〇と前年同月比で1・1%下落し、下落率は1・3%低下した〇三年六月以来五年八カ月ぶりの大きさを記録した。企業間の取引価格が波及し、消費者物価への下落圧力も高まっており、日本経済がデフレに突入する恐れが強まってきた。

前年水準を割り込むのは二カ月連続で、日銀は「景気悪化を受けた需要の落ち込みも響いた」と分析している。

輸入物価指数は24・3%下落響で引き続き大き記録。輸出物価指世界的な景気悪・6%下落した。

品目別では、各売不振の影響で鉄

アサヒCMに「NO.1」業界内で反発

泡酒とは別の原料でつくるビール風味のアルコール飲料で酒税法上の扱いが異なる。これまで同会は麦芽と、それ以外の大豆、エンドウ豆など二分野の出荷量

拒否